



神奈川の風



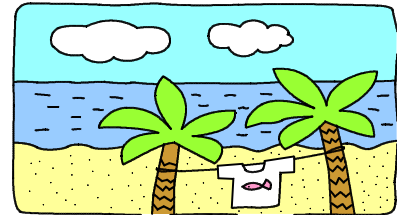
平成27年7月16日号

校長 吉江 明洋

< 夏の大会が終わった君に >

明日は1学期の終業式。18日(土)からは待望の夏休みとなります。まだ夢が繋がっている部活動は、このチャンスを最大限に生かしてほしいと、先生方全員で応援しています。

一方で、思うような結果が得られず、すでに悔しい思いをした部活動も多くあります。しかし、試合は、誰もが勝つことを目指しますが、どんな大会も優勝するのはただ1校。負けることを勉強するのが人生の糧となり、負けるからこそ課題と目標が生まれるのです。また、試合結果は残せなくても、一生懸命に活動してきた君の誇りは一生の宝物として心に残り、積み重なっていくはずで



中学校最後の大会が終わった3年生は『私の夏は終わった』などと感傷的になることはありません。部活動を離れて勉強や趣味に集中できる時間がやっとなってきたのだから…。

大会後は、新たな自分を創り出す出発の時なのです。この夏休みをどう過ごすかで君は大きく成長するはずで

< かけがえのない命を大切に >



私は夏休み直前になると、必ず思い出す辛い出来事があります。今年も、1学期最終号は、この話で締めくくりたいと思います。

かなり昔の話になりますが、夏休みの練習が午前中に終わり、部員を帰して2時間後に一本の電話が学校に入りました。「〇〇君が海の事故で病院に運ばれました…」という内容に、私は一瞬信じられずに「えっ。そんなはずありません。その生徒は今日の練習の最後に私と稽古して、ついさっき帰したばかりですが」と、思わず答えていました。

部活終了後、家で着替えてすぐに、昼食も取らず友人5名で海へ出かけての事故でした。遊泳禁止の海岸でしたが、サーファーや泳いでいる大人も多くいたため、気にせず、着いたとたん皆で胸の深さまで入り、5分ぐらいで岸に引き上げてきたら一人いなくなっていた。ということでした。

その生徒は25mは楽に泳げるし、運動好きでしたが、深みにはまってパニックをおこしたようで、残念なことに、再び笑顔を見せることはありませんでした。

この時ほど命の儚さを感じたことはありませんでしたし、残された保護者や同級生と共に「もうこんな思いは二度としたくない」と、言いようのない悔しさと胸が一杯でした。

そこで、夏休みを迎えるにあたって皆さんにお願いです。「楽しむときは十分に楽しんで欲しい。しかし、安全に対する注意も十分にしたい。かけがえのない命を大切にしたい」。あの時のような思いは絶対にしたくありません。

まずは健康管理と熱中症に気をつけて、8月27日(木)には、全員が明るく元気に顔合わせできることを心から祈っています。それでは良い夏休みを。

< 1学期最終号となりました。ご愛読を感謝します。また元気にお会いしましょう >